

I 教育委員会の事務点検・評価制度の概要（報告書 P1・2）

- 1 対象年度 令和元年度
- 2 法令上の根拠 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 第26条
- 3 評価方法 教育委員会の権限に属する事項について、教育委員会が自らの事務の適切な執行について確認するとともに、点検・評価を行うに当たり、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図っている。

※評価委員 学校教育分野：小橋 暁子（こばし さとこ）氏

千葉大学教育学部准教授 専門：造形教育学

生涯学習分野：岩崎 久美子（いわさき くみこ）氏

放送大学教授（前国立教育政策研究所総括研究官） 専門：生涯学習政策

- 4 重点的に評価する事業等【令和元年度の新規・拡充事業】※（ ）は評価委員が視察・ヒアリング

学校教育分野・キャリア教育（千葉市立葛城中学校）

・民間スイミングスクールを活用した水泳学習（千葉市立源小学校）

生涯学習分野・千葉市図書館ビジョン2040策定（中央図書館）

・令和元年度夏の台風による被害を受けた文化財への対応（加曽利貝塚）

・放課後こども教室・子どもルーム一体型モデル事業（千葉市立千草台東小学校アフタースクール）

II 教育委員会の活動状況（報告書 P3・4）

- 1 教育委員会会議を14回開催し、47件の議決を行った。
- 2 入学式等の学校行事や各種イベント、研修会、会議等に出席したほか、ホームページや教育だよりを活用した広報活動や養護教諭との意見交換などを実施した。

III 点検・評価の結果（報告書 P5～P105）

- 1 教育委員会による自己評価

学校教育分野は「第2次千葉市学校教育推進計画（H28年度～R3年度）」に、生涯学習分野は「第5次千葉市生涯学習推進計画（H28年度～R3年度）」にそれぞれ基づき、各施策を実施しているため、両計画の進捗状況を評価することにより、点検・評価を行った。また、令和元年度の新規・拡充事業のうち5つの事業について、重点的に評価を行った。

- (1) 全体の評価について

		成果指標					アクションプラン			
		◎	○	×	－		達成	順調	遅れ	休止
学校教育分野	54	5	2	17	30	108	24	76	8	0
生涯学習分野	10	1	3	4	2	66	22	28	14	2

◎	… 最終目標値（R3目標値）以上のもの	達成	… 最終目標（R3目標）以上のもの
○	… 中間目標値（H30目標値）以上のもの	順調	… おおむね順調に進捗しているもの
×	… 中間目標値（H30目標値）未満のもの	遅れ	… 進捗状況に遅れが出ているもの
－	… 達成率で評価しない（できない）もの	休止	… 事業を休止したものの

成果指標は達成状況×の項目が多く、順調であるとは言えない。一方で、アクションプランは「達成」「順調」の項目が多く、おおむね順調に進捗していることから、実施している取組みが成果として表れていないことがわかる。漫然とアクションプラン等の取組みを進めるのではなく、取組みの効果を検証しつつ取組内容を見直し、より効果の高いものに改善する必要がある。

- (2) 重点的に評価する事業等について

ア キャリア教育（報告書 P23・24）

研究指定校において、「キャリア・パスポート」を活用した先行実践をするとともに、キャリア教育推進連携会議を2回開催し、中学校職場体験とキャリア・パスポートの課題等について協議した。また、業界団体等の協力により、小・中学校延べ72校で学校訪問を実施した。

イ 民間スイミングスクールを活用した水泳学習（報告書 P32・33）

児童の泳力向上や教員の負担軽減などの効果を検証するため、小学校2校において民間のスイミングスクールを活用した水泳学習を実施した。児童の泳力や意欲向上のほか、水質管理や安全確保など教員の負担軽減に一定の効果が見られた。

ウ 千葉市図書館ビジョン2040策定（報告書 P72・73）

図書館が地域の「知の拠点」として豊かな市民生活や本市の発展に貢献できるように、実現したい図書館の未来像を描き、逆算する形で取り組むべき施策を示す指針として、新たな図書館計画「千葉市図書館ビジョン2040」を策定した。

エ 令和元年度夏の台風による被害を受けた文化財への対応（報告書 P77・78）

主に台風15号発生時の強風により、加曽利貝塚や月ノ木貝塚等の史跡では多くの倒木や幹折れが発生したため、安全性を確保する上で必要となる伐採及び倒木撤去を実施した。また、旧生浜町役場庁舎では屋根瓦の剥がれ等の破損が発生したため、瓦の葺き直しなどの修繕を実施した。

オ 放課後こども教室・子どもルーム一体型モデル事業（報告書 P84・85）

実施校を1校から6校に拡充し、「安全・安心な居場所」と「学びのきっかけ」の提供に努めている。令和元年度に実施したアンケートでは、保護者、児童ともに7割以上の利用者から「満足」との回答が得られた。

2 評価委員による評価

小橋委員の意見（報告書 P97～99）

全体について（総括的所見）

- ・学校教育推進計画（6年計画）の4年目の取組みについては、平成31年3月の中間見直しも含めて概ね良好な成果を得ていると評価することができる。
- ・子どもたちの学びを保障し、夢と思いやりの心を持ち、チャレンジする子どもを育てるための学校教育につなげるため今後も継続的に改革を進め、第2次学校教育推進計画に基づいた各事業の企画・推進を期待したい。

キャリア教育について

- ・キャリア教育の課題とされている職場体験や進路調査だけに終わらないような計画や実践、質を高めるための改善に向けて評価がされており、充実した教育内容となっている。
- ・研究推進を行ってきた学校の事例等を活かせるよう、学校内外において継続可能な支援や、情報を共有するための仕組みづくりがさらに必要になるだろう。また校内外でのキャリア教育の実践の中心となる教員の育成や支援、また個々の教員へのキャリア教育についての理解を推進するための方策の検討が重要である。

民間スイミングスクールを活用した水泳学習について

- ・民間スイミングスクールの活用により、水泳学習はじめ校内のプール掃除、水質管理、安全確保等を天候や対応人数に左右され行うことがなくなり、水泳学習に伴う教員の仕事量・種類とも負担軽減となっている。
- ・スイミングスクールでの指導は複数のインストラクターが関わり、児童へのきめ細かな指導につながっている。

岩崎委員の意見（報告書 P100・101）

全体について（総括的所見）

- ・市民へのサービス向上を目指し、総じて適切、かつ積極的に運営されていることを確認した。
- ・市民のニーズを丁寧にくみ取り、ニーズに応じた事業を実施した後にその充足度などを取り上げるのが評価としての本来の姿と思われる。適切な評価を行う上では、評価指標の妥当性についてのさらなる検討が望まれる。
- ・今後も新しい発想や柔軟な対応に果敢に取り組む文化が醸成され、千葉市の生涯学習事業の多くが全国のモデルとなることを期待する。

千葉市図書館ビジョン2040策定について

- ・このビジョンには、地域の「知の拠点」としての新たな図書館の姿が描かれている。そのコンセプトは、「市民の知的好奇心を刺激し、ワクワクする図書館」というものであり、知をつなげる新たなプラットフォームを構築しようとする千葉市の生涯学習支援に対する意気込みを感じる。
- ・コンセプトを実効性あるものとするためには、千葉市図書館情報ネットワーク協議会などを通じて多様な協働・連携事業が検討され、また中央図書館と生涯学習センターが合築である利点をいかした体系的な事業の企画・実施など、教育的な相乗効果や創発効果を意図したプラットフォームの形成・充実が必要であろう。

令和元年度夏の台風による被害を受けた文化財への対応について

- ・千葉市を襲った台風の被害への対応、木々の害虫被害や間伐の必要性など管理運営上で多くの対応が求められ、またコロナ禍で移動自粛の中で集客がままならず、予定の事業が実施できない状況に苦労されながらも真摯に対応されている。
- ・ホームページを通じ、学術的内容をわかりやすく情報発信する積極的な取組みを行っていることは特記に値する。
- ・博物館、図書館、公民館の連携事業についての具体的な事業提案もあり、また、教育センターとの連携による学校の教員に対する講座提供の検討など、加曽利貝塚博物館という資源の有効活用へのアイデアが多く認められた。

放課後こども教室・子どもルーム一体型モデル事業について

- ・共働き家庭が増加する中で、千葉市に子育て世代を呼び込むためには、放課後子ども教室・子どもルーム一体型モデル事業は、子育て支援として非常に重要な事業である。
- ・人生において、子どもである時期は限られ、その多くの時間を学校で過ごすことから、放課後の時間にあっても、振り返ったときに、懐かしく楽しい良い思い出となる時間でありうるよう内容の充実について鋭意検討していただいた。

評価委員の意見に対する対応（報告書 P102～105）

これまでの事務点検・評価において評価委員よりいただいた意見に対する対応状況は右表のとおりです。すべての意見に対し、取組みを実施しています。

説明	項目数
意見に対する取組みについて検討し、実施しているもの。	10
意見に対する取組みについて検討しているもの。	0
未対応のもの。	0